

令和7年度 墨田区立隅田小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 藤井 洋子

学校教育目標	自分の思いや考えがもてる子ども・思いやりの心がある子ども・心と身体をきたえる子ども
目指す学校像	明るく 楽しく 温かく 明日も行きたくなる学校
目指す児童像	自ら考えやりぬく子・互いに認め合い高め合う子・健康で安全な生活を心がけ、体をきたえる子
目指す教師像	一人一人の良さを伸ばし、分かる／楽しい／定着する授業を追求する教師・一人一人の思いに寄り添い、個性を引き出し、生かす教師・保護者、地域と連携し、ともによりよい学びの場を創造する教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

- ・学力向上
- ・挨拶、返事、正しい言葉づかい
- ・不登校防止対策への取組

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
	分かる、できる、定着する授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や課題の明示→展開→まとめ→適応問題→振り返り ・授業開始後2分間に既習事項の復習 	4	分かる、できる、定着する授業の実践90%以上（教ア・授業観察）	3	4	区学習状況調査90%以上の観点で目標値以上	<ul style="list-style-type: none"> ・34観点26観点で目標値以上（76.5%） ・課題（国語→漢字の書き取り・文章での回答、算数→解答の理由・自分の考えを書く問題、社会→資料の読み取り、理科→実験と知識が結び付き） ・振り返りの時間の確保の意識化が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を徹底 ・朝学習や放課後すみだ塾の充実 ・日々の授業の中で意識して、学習したことを活用する場面をつくる。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果は以前より向上していることがわかる。継続して頑張ってほしい。
			3	分かる、できる、定着する授業の実践80%以上（教ア・授業観察）		3	区学習状況調査80%以上の観点で目標値以上					
			2	分かる、できる、定着する授業の実践70%以上（教ア・授業観察）		2	区学習状況調査70%以上の観点で目標値以上					
			1	分かる、できる、定着する授業の実践70%未満（教ア・授業観察）		1	区学習状況調査70%未満の観点で目標値以上					
各教科指導等	基礎基本の定着のための組織的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟のための時間や人材の確保 	4	朝学習・放課後すみだ塾の実施率90%以上	4	4	計算・漢字の正答率80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・こつこつと学習に取り組む力がついてきた。 ・学年で朝学習や放課後すみだ塾を運営する体制づくりが定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、取組を強化していく。 ・特別な配慮が必要な児童への支援を工夫する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・すみだ塾とても意欲的に取り組んでいる。 ・授業の様子が落ち着いている雰囲気がある。
			3	朝学習・放課後すみだ塾の実施率80%以上		3	計算・漢字の正答率75%以上					
			2	朝学習・放課後すみだ塾の実施率70%以上		2	計算・漢字の正答率70%以上					
			1	朝学習・放課後すみだ塾の実施率70%未満		1	計算・漢字の正答率70%以下					
	教師の学習指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（年8回） ・授業交流（相互参観）期間（年3回） ・授業観察（年3回） ・主任教諭による研修（各主任教諭が年1回以上） 	4	研修の実施率100%	4	4	肯定的回答90%以上（教ア）	<ul style="list-style-type: none"> ・教員へのアンケートでは、特に授業交流と主任研修への支持が多い。 ・校内研究では、事前・事後の実践により授業改善の意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上に努める本校の教職員のよさを生かし、教員にとって必要感のある研修を今後も工夫する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちのために一生懸命に取り組む先生たちの思いを感じている。
			3	研修の実施率90%以上		3	肯定的回答80%以上（教ア）					
			2	研修の実施率80%以上		2	肯定的回答70%以上（教ア）					
			1	研修の実施率80%未満		1	肯定的回答70%未満（教ア）					
生活指導等	「あいさつ、返事、正しい言葉づかい」の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解を推進 ・定期的な振り返り 	4	定期的な指導の実施（教ア）100%	4	4	肯定的回答70%以上（保ア）	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでの肯定的回答は、あいさつ・返事→73%、言葉づかい→59% ・あいさつは徐々に定着してきているが、言葉づかいは課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が範を示すとともに肯定的な声かけを実施。 ・個々の状況に応じたきめ細やかな指導・支援 ・家庭との連携強化（学校での取組の紹介、学校だより等での周知） ・国語科・道徳など日々の学習の中で相手を意識した適切な言葉づかいを指導 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・強制的に「させる」のではなく、一人一人の児童の状況に応じて働きかけていきたい。 ・指導や支援を続けていくことで、いつか児童が気持ち良さを感じてくれれば嬉しい。
			3	定期的な指導の実施（教ア）90%以上		3	肯定的回答65%以上（保ア）					
			2	定期的な指導の実施（教ア）80%以上		2	肯定的回答60%以上（保ア）					
			1	定期的な指導の実施（教ア）80%未満		1	肯定的回答60%未満（保ア）					
	不登校児童への対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・未然防止、早期対応（質問紙、生活指導夕会、学年会、交換授業、学年合同授業、居場所づくり等） ・組織的対応（不登校対策委員会、特別支援委員会との連携、外部機関の活用等） 	4	不登校児童、不登校傾向児童への対応状況100%	4	4	年度末における新規の不登校児童3人以下	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童（欠席30日以上）11名、うち解消1名改善3名 ・新規の不登校児童0名 ・対応状況100% ・きめ細やかな対応が成果につながってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、スクールカウンセラー、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、医療機関など組織での対応を強化していく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規不登校児童が少ないのは素晴らしい。 ・育成委員会では保護者への支援を始めた。それぞれの立場で互いに連携して支えていきたい。
			3	不登校児童、不登校傾向児童への対応状況90%以上		3	年度末における新規の不登校児童4人					
			2	不登校児童、不登校傾向児童への対応状況80%以上		2	年度末における新規の不登校児童5人					
			1	不登校児童、不登校傾向児童への対応状況80%以下		1	年度末における新規の不登校児童6人					
	特別な配慮を要する児童への組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターの活用（アセスメント、授業改善、OJT・研修等） ・特別支援教室巡回指導教員との連携 ・保護者、外部機関との連携 ・環境整備 	4	肯定的回答85%以上（教ア）	4	4	「先生のささえ」（質問紙）の項目で全国平均の5ポイント以上	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生のささえ」第1回→全国平均より+2.8ポイント、第2回→+2.4ポイント、どの学年も平均を上回っている ・個に応じた手立ての工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級（知的固定）設置校の強みを生かし、特別な支援が必要な児童への理解を深めるとともに、特別支援教育の視点に立った指導や支援の改善をすすめる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく、家庭とも協力しながらできるとよい。
			3	肯定的回答80%以上（教ア）		3	「先生のささえ」（質問紙）の項目で全国平均の1ポイント以上5ポイント未満					
			2	肯定的回答75%以上（教ア）		2	「先生のささえ」（質問紙）の項目で全国平均と同等					
			1	肯定的回答75%以上（教ア）		1	「先生のささえ」（質問紙）の項目で全国平均値以下					

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
	安全な学校生活の実現	・避難訓練、安全点検、安全指導の実施（月1回） ・登下校の安全確保（登校班、地域・保護者の見守り） ・教職員の危機対応能力の向上（不審者対応訓練、アレルギー対応研修、服務事故防止研修等）	4	各取組の実施状況100%	4	4	肯定的回答90%以上（保ア）／重大な事故の発生0件	3	・保護者アンケートでの肯定的回答91% ・給食への異物混入2回（うち1回は異物の特定できず） ・折に触れ、危機管理への意識を高めることが課題。	・安全を最優先にした給食指導、給食提供 ・より実践的な避難訓練の実施 ・児童の実態に即した安全指導の工夫（登校班指導、遊びのルール等）	A	A	・給食の異物混入防止の具体的な改善方法は？ （→調理の工程ごとに混入物の有無のチェックを行う、複数人での確認） ・塩分量等安心・安全な給食提供に努力していることがわかった。 ・校庭改修工事の進捗状況は？（→予定通りすすんでいる）	
			3	各取組の実施状況90%以上		3	肯定的回答80%以上（保ア）							
			2	各取組の実施状況80%以上		2	肯定的回答70%以上（保ア）							
			1	各取組の実施状況80%未満		1	肯定的回答70%未満（保ア）／重大な事故の発生1件以上							
学校の管理運営	児童の実態に即した教育活動の実施	・児童理解の推進 ・交換授業、教科担任制の充実 ・学年合同授業の拡充 ・全学年でのクラス編成替の実施	4	肯定的回答90%以上（教ア）	4	4	「学級の絆」（質問紙）の項目で全国平均の5ポイント以上	3	・「学級の絆」第1回→全国平均より+2.1ポイント、第2回→+2.2ポイント ・交換授業や教科担任制、学年合同での授業は児童理解の促進につながった。	・引き続き、交換授業や教科担任制、学年合同の取組を積極的に取り入れ、学校が児童にとって安心・安全な居場所となるように学校全体で取り組む。	A	A	・担任だけではなく、学年・学校で見ていることはよい。	
			3	肯定的回答80%以上（教ア）		3	「学級の絆」（質問紙）の項目で全国平均の1ポイント以上5ポイント未満							
			2	肯定的回答75%以上（教ア）		2	「学級の絆」（質問紙）の項目で全国平均と同等							
			1	肯定的回答75%以上（教ア）		1	「学級の絆」（質問紙）の項目で全国平均値以下							
	教職員のライフワークバランスの支援	・有給休暇の取得推進 ・特別休暇の周知と取得推進 ・互いに支え合う職場風土の醸成	4	月あたりの残業時間45時間以内の教員90%以上	2	4	ストレスチェック指数で同業種の平均より10ポイント以下	4	・月あたりの残業時間45時間以内の教員78.1% ・同業種の平均より-32ポイント、「量的負担、仕事のコントロール」では全国平均 ・より効率的な運営が求められる。	・「職場の支援」が大変良好（-31ポイント）である強みを活かした組織体制づくり。 ・教職員の負担軽減に努めるとともに、やりがいを高めることも大切にした学校経営を行う。	B	A	・教員間の和合が感じられる。 ・先生たちには自分の身体を大切にしてほしい。	
			3	月あたりの残業時間45時間以内の教員80%以上		3	ストレスチェック指数で同業種の平均より5ポイント以下							
			2	月あたりの残業時間45時間以内の教員70%以上		2	ストレスチェック指数で同業種の平均と同じ							
			1	月あたりの残業時間45時間以内の教員70%未満		1	ストレスチェック指数で同業種の平均以上							
家庭・地域連携	保護者・地域のさらなる理解・協力	積極的な情報発信 ・ホームページの更新（週1回） ・学校だよりの発行（月1回） ・各アンケートの結果と改善案の周知（随時）	4	各取組の実施状況100%	4	4	肯定的回答90%以上（保ア）	3	・保護者アンケートでの肯定的回答86% ・より多くの保護者・地域の方にわかりやすく、魅力的な情報発信を工夫する必要がある。	・学校情報配信メール及びホームページ、それぞれのよさを生かした情報発信 ・学校だよりの更新は毎月決まった日に行うとともに、学校情報配信メールでも更新したことを知らせる	B	A	・HPが見られるようになったのはよかった。	
			3	各取組の実施状況90%以上		3	肯定的回答80%以上（保ア）							
			2	各取組の実施状況80%以上		2	肯定的回答70%以上（保ア）							
			1	各取組の実施状況70%以下		1	肯定的回答70%以下（保ア）							
		保護者・地域の学校行事への参加促進	・周知方法の改善（早めの周知、複数回等） ・各行事の意義の周知	4	各取組の実施状況100%	4	4	保護者の参加率80%以上	4	・保護者の参加率80% ・体育学習発表会や保護者参加型の公開日は参加率が高い。 ・児童が意欲的に取り組む姿、成長した姿を肯定的にとらえる機会にした。	・来年度も早めの周知を心がけるとともに、目指す児童の姿を具体的に伝える工夫をしていく。	A	A	・講演会の参加者がもっと増えるとよい。
				3	各取組の実施状況90%以上		3	保護者の参加率75%以上						
				2	各取組の実施状況80%以上		2	保護者の参加率70%以上						
				1	各取組の実施状況70%以下		1	保護者の参加率70%以下						
		地域を活用した教育活動の充実	・開校20周年行事への取組 ・学校支援ネットワークの活用 ・地域ボランティアとの連携 ・地域の教材化	4	地域を活用した学習の実施率100%	4	4	肯定的記述90%以上（事後の学習感想）	4	・今年度は周年への取組もあり、教職員・児童ともに地域への意識を高めることができた。 ・教職員へのアンケートからも、出前授業など地域を活用した学習は児童の意欲を高めたことが明らかになった。	・総合的な学習の時間等で地域を活かした学習を積極的に取り上げるとともに、地域へも積極的に発信する。	A	A	・出前授業が毎回楽しみにしていて家庭でも嬉しそうに話してくれている。
				3	地域を活用した学習の実施率90%以上		3	肯定的記述80%以上（事後の学習感想）						
				2	地域を活用した学習の実施率80%以上		2	肯定的記述70%以上（事後の学習感想）						
				1	地域を活用した学習の実施率80%未満		1	肯定的記述70%未満（事後の学習感想）						

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

・開校20周年を迎え、例年以上に保護者・地域の皆様にご支援・ご協力いただき、教職員も前向きに教育活動に邁進することができた。今後も積極的な学校公開、わかりやすい情報発信に努め、保護者・地域との信頼関係を強化していきたい。

・児童の学習意欲は確実に向上している。引き続き、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に力を入れるとともに、思考力・判断力・表現力の育成を目指していく。

・不登校対策は成果が現れてきた。今後も家庭・関係機関と積極的に連携し組織としての対応力を向上させ、全ての児童にとって安心・安全な学校づくりに努めていく。

・全体として落ち着いた雰囲気の中で学校生活が営まれている。全教職員が同じ指導をできるよう、共通理解の場を設けるとともに、児童の意見を取り入れながら、実態に応じた指導・支援を工夫し、「挨拶、返事、正しい言葉づかい」や規範意識の向上を図る。